

町田市博物館等の新たな在り方構想検討委員会
委員長 様

町田市長 石坂 丈一

町田市における博物館等の新たな在り方構想の検討について(依頼)

町田市博物館等の新たな在り方構想検討委員会設置要綱第 2 条の規定に基づき、次の事項について貴委員会に検討を依頼いたします。

(検討事項)

町田市博物館等の新たな在り方について

1. 今日的な町田市の博物館が担うべき役割・機能
2. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の資料収集の在り方
3. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の望ましい運営形態
4. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の望ましい施設・組織
5. エコミュージアム等の新たな博物館の適合性とその在り方

(検討理由)

町田市立博物館は、築後 36 年が経過し建物の老朽化が進んでいることから、今後の在り方について検討することが課題となっています。

現博物館の課題への対応としては、直ちに改修や建替えを検討するのではなく、町田市の文化関連施設の全体を見直すなかで、町田市の博物館機能を整理し、今後の文化芸術振興の中核的な施設としての在り方を整理する必要があります。

そこで町田市では、平成 20 年 11 月に「町田市博物館等の在り方検討委員会」(庁内組織)を設置し、市立博物館をはじめフォトサロン、自由民権資料館、考古資料室、ふるさと農具館、がにやら自然館、萬葉草花苑など、博物館機能を有する施設を所管する課の職員(学芸員含む)により、分散している各施設の使命、目的、資料収集等の現状把握や課題・論点の整理を行ってきました。平成 22 年 3 月、10 回の検討結果をまとめた「町田市における博物館の在り方について—町田市博物館等の在り方検討委員会検討結果報告書」を作成しました。また、平成 21 年 6 月に市民 2,000 名に町田市立博物館に関する意識調査を実施しました。意識調査の結果は、報告書に反映しています。

このことから、市立博物館が所有する美術品や民俗資料などの評価(活用方法、所有の必然性等)や市内の博物館類似施設との連携や観光分野との連携など、今後の町田市の博物館や類似の展示施設のあり方について、貴委員会に検討を依頼するものです。